

令和5（2023）年3月
金城大学附属西南幼稚園
園長 山田 紀子

令和4年度 金城大学附属西南幼稚園 学校評価報告書

<はじめに>

幼稚園は、教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない。（学校教育法、学校教育法施行規則）

幼稚園における学校評価は、以下の3つを目的として実施するものとされている。（文部科学省『幼稚園における学校評価ガイドライン [平成23年改訂]』）

- ① 各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ② 各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③ 各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講ずることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

評価の形態には、以下の3つがある。

- ① 自己評価：各学校の教育活動などの状況について自ら行う評価（法令上、実施及び公表の義務がある。）
- ② 学校関係者評価：保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された評価委員会等が、自己評価の結果について行う評価（法令上、実施及び公表の努力義務がある。）
- ③ 第三者評価：学校運営に関する外部の専門家を中心とした評価者により、自己評価や学校関係者評価の実施状況を踏まえつつ、教育活動その他の学校運営の状況について専門的視点から行う評価（法令上の義務付けはない。）

今年度、本園では「自己評価」及び「学校関係者評価」を実施した。本報告書は、この2つの評価結果と今後の改善方策を取りまとめたものである。

<実施概要>

● 自己評価

(1) 教育の質・教育・保護者理解について

教育理念として「あそびが充実し、学びが深まる教育」、また、令和4年度の重点目標として「少人数保育の中で学びを深めるためにはどのような環境や経験が必要であるか～子どもたちの育ち合いを高めていく～」の実践を掲げ、到達目標は「好きなことを見つけ、「安心」、「熱中」のもと、あそびを展開する」とした。評価項目は「あそびの中で十分に体を動かす楽しさを味わう」、「教師や友達と一緒にあそびを進めていく楽しさを味わう」、「身近な物や遊具・自然に興味を持ち、考え・試し・工夫してあそぶ」、「教師や友達と会話を楽しみ、相手に伝えようと工夫する」、「好きなあそびを十分に楽しみ、のびのびと表現する楽しさを味わう」の5項目とした。評価指標としては「努力指標」、「成果指標」、「保護者満足度指標」の3指標を設定し、自己評価を行った。

評価の流れは、毎月の月案（ひと月の教育計画）、毎週の週案（1週間の教育計画）を作成し、これらの結果の振り返りを通して自己評価を繰り返し、2月には全員参加で振り返りを行い、また、その内容について専門家から助言と指導をいただいた。さらに、3月には各クラス担任が「自己評価表」及び「自己評価シート」を作成し、保護者を対象として実施したアンケート調査の結果も踏まえて自己評価結果を取りまとめた。

(2) 環境・衛生管理について

今年度、新たに評価項目を追加し、評価の対象とする取組内容を「マスク着用」、「体温測定」、「消毒」、「水質、空気検査」、「安全点検」、「プール衛生点検」のほか、石川県総務部総務課による「スクールバス送迎に当たっての安全管理に関する実地調査」を合わせ7項目とした。なお、評価指標は計画どおり実施できたかどうかを判断基準とし、自己評価を行った。

例年、保護者に対しては報告会を実施しているが、昨年度同様、新型コロナウイルス感染防止のため報告会は中止とし、保護者代表としてPTA会長と母親役員代表に書面にて報告した。また、報告書については、幼稚園にて閲覧できることを保護者全員に通知した。

● 学校関係者評価

評価員は、PTA会長を含む保護者2人、隣接する松陽小学校の校長、金城大学短期大学部教員の合計4人に依頼した。新型コロナウイルス感染症対策のため、評価員には書面にて自己評価結果を報告するとともに、評価表への記載を依頼した。

<結果>

● 自己評価結果

① 教育の質・教育・保護者理解についての自己評価

- 教育方針：あそびの中に学びがある。
- 教育目標：一人ひとりの個性を伸ばしながら、人間形成の基礎を養い、自主的にあそべる子どもを目指す。
- 教育理念：あそびが充実し、学びが深まる教育。
- 令和4年度の重点目標：少人数保育の中で学びを深めるためにはどのような環境や経験が必要であるか
～子どもたちの育ち合いを高めていく～
- 評価項目：
 - * あそびの中で十分に体を動かす楽しさを味わう
 - * 教師や友達と一緒にあそびを進めていく楽しさを味わう
 - * 身近な物や遊具・自然に興味を持ち、考え・試し・工夫してあそぶ
 - * 教師や友達と会話を楽しみ、相手に伝えようと工夫する
 - * 好きなあそびを十分に楽しみ、のびのびと表現する楽しさを味わう

評価指標	実現状況の達成度判断基準	自己評価(※)
<p>【努力指標】</p> <p>子どもの小さな興味・関心から始まる主体的な遊びや活動を大切にし、その中で生まれる話し合いや試行錯誤する姿などプロセスを大切にする。</p> <p>安心して園生活を送る中で、友だちと関わることの楽しさや、遊びの中で充実感ややり遂げようとする姿を育てる。</p>	<p>A：十分達成されている</p> <p>B：達成されている</p> <p>C：あまり達成されていない</p> <p>D：取り組みが不十分である</p>	<p>B</p> <p>A評価：1人</p> <p>B評価：2人</p>
<p>【成果指標】</p> <p>好きなことを見つけ、「安心」、「熱中」のもと、遊びを展開する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したり、充実感をもってやり遂げるようになる。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">協同性</p>	<p>A：ほとんどできている</p> <p>B：できている</p> <p>C：あまりできていない</p> <p>D：できていない</p>	<p>B</p> <p>B評価：3人</p>

<p>【保護者満足度指標】 園生活を通じて、わが子の成長を感じ、満足している。</p>	<p>A：十分満足している B：満足している C：やや満足している D：不満である</p>	<p>B B評価：3人</p>
--	---	----------------------------

(※) 自己評価の結果、各クラス担任（3人）の評価から総合的に判定した。

② 各クラス担任等による取組状況・自己評価

クラス等	取り組み状況・自己評価等	課題・改善策等
<p>満3歳児 3歳児</p>	<p>まずは、園児がやりたいことができ、好きなあそびや安心できる場所を見つけ、安定した生活が送れるように関わっていった。それぞれの思いからトラブルも多くなるが、双方の気持ちを受け止め、声掛けしていく事で相手を思う気持ちも育ってきた。初めての行事も、日々の遊びを取り入れることで、それぞれの個性を發揮し、見てもらう嬉しさや友達と一緒に取り組む楽しさを感じ、あそびも広がっていった。</p>	<p>子どもたちが主体的に遊ぶことができる環境を整えながら保育するように努めたが、少人数ということもあり、声をかけすぎてしまったり、誘導してしまったりする場面もあった。異年齢での合同保育における教師の配置や環境について、教師間で共有していく事を考えていきたい。</p>
<p>4歳児</p>	<p>安心した環境のなかで、少しずつ子どもたちがやりたいことを見つけ、遊ぶようになってきた。異年齢児との関わりを大切に、あそびが広がるように環境構成を考えていった。運動会後には年長児と一緒にルールのあるあそびを楽しむ姿が増えてきた。自然に親しみ、昆虫や植物で分からないことを年長児に聞く姿も見られ、子どもたち同士のかかわりの中での学ぶ場の大切さを感じ、環境の大切さやどこまで教員が関わるか等、考えることも多かった。</p>	<p>子どもたちが主体的に遊びやすい環境を構成していく中で、教師の思いが強くなり誘導的になってしまうこともあった。子どもたちの育ち合いを高めていくためには、教師は子どもたちがしたいことは何なのかを見極めながら、環境を整備していく必要がある。</p>

<p>5 歳児</p>	<p>少人数ながらもクラスの友達と深い関わりを積み重ねてきた経験から、今年度はさらに子どもたちの育ち合いを高めていくために、異年齢との関わりを意識し、子どもたちが主体的に活動できるよう、互いのクラス環境や活動内容を意図的に設定することを心がけた。</p> <p>その中で、思いがぶつかり、自分の思うようにいかない経験を重ねていくことで、多人数で遊ぶことの楽しさや、思いが伝わることの嬉しさを感じながら、互いを認め合う姿が多く見受けられるようになり、あそびや日々の活動が深まっていった。</p>	<p>教師は、異年齢での活動では、それぞれの年齢でのねらいをしっかり持ち、環境や援助を工夫し、育ててほしい子どもの姿を捉えなければならぬ。</p> <p>そのためには、教師間での話し合いや共通理解がとて重要になってくることを痛感した。</p> <p>今後も、少人数の良さを生かしながら、一人ひとりを大切にしたい保育・教育に取り組んでいきたいと思う。</p>
<p>総括</p>	<p>子どもたちが、主体的に遊び、活動できるようにしていくには、安心して過ごせる環境が大切になる。教員は、一人ひとりの子どもたちが、何に興味を持ち何をしていきたいのかをしっかりと見極めていくことが大切になる。そのためには、一人ひとりの子どもの気持ちを受け止め、丁寧に関わり、その子に合った言葉かけや行動が必要になる。</p> <p>少人数の保育も、クラス単位ではなく園全体を通し、自由遊び等の見直しも含めて考えていく必要がある。</p>	<p>子どもたち一人ひとりが安心して遊ぶことができる環境構成は、非常に大切である。教師による構成後に、子どもたち自身が自由に必要なものを準備できるといったことを、含めて考えていくことが大切である。</p> <p>そのうえで、教師は自らの保育を省察し、改善していくことが望まれるため、それぞれの教師が PDCA サイクルを常に考えていく必要がある。</p>

③ 保護者アンケート結果（令和5年3月1日実施）

Q 1 本園の教育方針「あそびの中に学びがある」。子どもたちは幼稚園でたくさんあそび、学んでいると感じますか？（回答者 21人）

「あてはまる」 95%

「だいたいあてはまる」 5%

「あまりあてはまらない」 0%

「あてはまらない」 0%

Q 2 友だちとかかわることの楽しさが育っていると感じますか。（回答者 21人）

「あてはまる」 81%

「だいたいあてはまる」 14%

「あまりあてはまらない」 5%

「あてはまらない」 0%

Q 3 自分に自信をもって自分なりのやり方でやろうとする姿が見られるようになったと感じますか。（回答者 21人）

「あてはまる」 76%

「だいたいあてはまる」 24%

「あまりあてはまらない」 0%

「あてはまらない」 0%

Q 4 西南幼稚園は、子どもの興味・関心から生まれることを大切にしてくれていると感じますか。（回答者 21人）

「あてはまる」 95%

「だいたいあてはまる」 5%

「あまりあてはまらない」 0%

「あてはまらない」 0%

Q 5 運動会や発表会など行事を通してお子様の成長を感じますか。（回答者 21人）

「あてはまる」 95%

「だいたいあてはまる」 5%

「あまりあてはまらない」 0%

「あてはまらない」 0%

Q 6 この機会に園に伝えたいことがありましたら、お書きください。

- * 伸び伸びと温かい保育で、園児の今に寄り添い、心と身体の育ちをサポートしていただけていると感じています。
- * 子どもたちが自然と触れ合いながら、家庭でできないようなことを体験させてもらい、勉強になります。幼稚園に行きたい。友だちとあそびたい。と思わせてくれる幼稚園です。
- * 初めての幼稚園生活で心配していましたが、子どもが毎日楽しく幼稚園に通っている姿や、昨日までできなかったことができるようになった姿を見て我が子の成長を嬉しく感じています。先生方が子どもに真剣に向き合ってくたくさんの刺激と学びを与え、優しく見守ってくださっているからだと思っています。
- * 友だちとのトラブルから手が出るなど、悲しい思いをすることがあり、先生が見ていない時にされる時もあるようです。幼い子どもたちですので仕方がない部分はありますが、引き続き見守っていただきたいです。また、我が子が同じようにお友達に手が出てしまった時には、きちんと叱っていただきたいです。

保護者アンケートの結果、保護者に、本園の教育成果をおおむね評価していただいている様子うかがえた。

④ 環境・衛生管理についての自己評価

○ 評価指標：環境・衛生管理に関する事項について、計画通り実施できたかどうか。

- A：十分達成されている
- B：達成されている
- C：あまり達成されていない
- D：取組が不十分である

○ 自己評価：A 年度当初に予定した計画を全て実施することができた。

- * 石川県総務課による「スクールバス送迎に当たっての安全管理に関する実地調査」において、現状の体制がしっかりと基準を満たしているとの評価をいただきましたが、更に、この調査を踏まえ、園児の乗降に関するチェック表を見直すことで、より一層、安全意識を高めることができた。

● 学校関係者評価結果

評 価 項 目	評 価
<p>【教師の質】</p> <p>昨年度の課題から「教師の関わり方」、「子どもを読み取る力」を更に高める。</p> <p>1. 保育内容、ケース会議、カンファレンスを丁寧に行い、教師間の共通理解、幼児理解を深める。</p> <p>2. 金城大学短期大学部の教員による園内研修を行い、教師の質の向上を図る。</p> <p style="padding-left: 40px;">研修テーマ 柴田先生：「発達障害について」 2回 米川先生：「保護者支援について」 1回</p> <p>3. 外部研修に参加し、教師間の質の向上を図る。</p>	<p>A：3人 B：1人</p>
<p>【教育】</p> <p>昨年度の課題から、「少人数保育の中で学びを深めるためにはどのような環境や経験が必要であるか。～子どもたちの育ち合いを高めていく～」に教育テーマをおき、日々の教育に取り組む。</p> <p>1. 個の姿や集団の姿を丁寧に読み取り、関わりや環境を整える。</p> <p>2. 記録から、読み取りや幼児理解、振り返りを行い、しっかりと次の教育に返していく。</p> <p>3. 自己評価の実施、自己評価シート作成、教育活動の成果や課題点を明確にすることにより、しっかりと次年度の教育に繋げていく。</p>	<p>A：3人 B：1人</p>
<p>【保護者理解】</p> <p>幼稚園教育の保護者理解・幼児理解・家庭教育の深まりを図る。</p> <p>1. 連絡帳やクラスだよりを通して、個の姿やクラスの様子を細やかに伝える。</p> <p style="padding-left: 40px;">① 教師の思いや願いを伝える。 ② 結果だけでなく、そのプロセスを伝える。 ③ どういった学びや成長に繋がるのか伝える。</p> <p>2. 場合により、電話で伝えたり、直接話し合う場を設ける。</p> <p>3. 行事を通して園での様子を見ていただく。</p> <p>4. 保護者アンケート実施</p>	<p>A：3人 B：1人</p>
<p>【環境・衛生管理】</p> <p>1. マスク着用（園児→スクールバスの中、職員→常時）</p> <p>2. 体温測定（検温カード）</p>	<p>A：4人 B：0人</p>

<p>3. 消毒（手指、玩具、保育室）</p> <p>4. 水質、空気（ダニ・アレルゲン、換気・温度・相対湿度、気流・浮遊粉塵）検査</p> <p>5. 安全点検（遊具点検）</p> <p>6. プール衛生点検</p> <p>7. スクールバス送迎に当たっての安全管理に関する実地調査</p>	
<p>【感想と所見】</p> <p>* 実態を踏まえた適切な目標設定、実現するための教育体制の整備、教師の資質向上及びその検証、改善がなされており、それが保護者の信頼につながっていると感じた。</p> <p>* スクールバス実施調査においても工夫された安全対策がされて高評価を得ていることも素晴らしいと思う。</p> <p>* 最終的なアウトプットが素晴らしいと感じた。置かれた現状の問題点をメリットとして捉えて対応を考えていたところが良かったと思う。</p> <p>* コロナ禍という大変な状況下で、園での行事がなくなったり、縮小していたが、今年度は運動会、発表会は久しぶりに全員で行えたこと、その為に尽力して下さった事、本当に感謝している。</p> <p>* 子どもたちのひらめきを取り入れてくれることで、考えたことが実現できる喜びを実感できたと思う。</p> <p>* 教師の質の向上では、具体的に研修を終えてどのような質の向上が図られたのかを報告書に書かれると良いと思った。</p> <p>* どのくらいの人数を少人数保育と考えているのか、生活面でも遊び（学び）の面でも、あまり少人数では家庭保育になってしまう可能性があるのでは、縦割りを多く取り入れて、異年齢児の中で育つ助け合う心、思いやりの心、懂れる存在になる等、を重視した方が良いのではないかと思う。</p> <p>* 保護者アンケートと「質問2」にあまり当てはまらないが5%ある。今後、何故、そのように感じるのかを確認していくことが質の向上に繋がると思う。</p>	

評価員4人からの評価について、4つの評価項目において、概ねA評価であった。「感想と所見」の記載からも、本園が目指す園教育をご理解いただいていることを実感した。この教育をより向上させるため、子ども理解を深める研修を重ねていくことの必要性も感じた。その上で、あそびだけではなく、生活の場全てが幼児にとって大切な学びの場であるということ認識し、今後の活動の在り方について検討する。

また、子どもの個々の思いをしっかり受け止め、やってみたいと思ったことを実現していく環境構成は実践できているが、集団での活動という視点からはさらに取組の工夫が必要だと考える。更に、子どもが主体である保育の大切さや少人数保育の捉え方について、今一度考える。

<おわりに>

今年度は、「少人数保育の中で学びを深めるためにはどのような環境や経験が必要であるか～子どもたちの育ち合いを高めていく～」という重点目標を持って保育を進めてきた。

子どもたちは、あそびや生活を通して様々な人(友達・異年齢児・教師)と関わる中で、新たな発見があり、互いが良い刺激となり成長していく。また、異年齢の関わりが深まることであそびが発展し、話し合いや試行錯誤する姿、挑戦しようとする姿が増えていき、異年齢の関わりが大切であることを再確認できた。

今年度の成果や課題から見えてきたものを次年度に繋げていくために、教師の質の向上を図り、令和5年度も令和4年度と同じ重点目標を掲げ、子どもたちがより育ち合える環境を整え、教育活動を実践していく。

また、今年度は、石川県総務部総務課による「スクールバス送迎に当たっての安全管理に関する実地調査」が行われ、運行時のマニュアル等を再確認し、乗降時確認チェックシート・バス運転士・教師のチェック体制を報告することができた。目視や口頭によるチェックができている点や、職員室の出欠状況確認ボードで全職員が一目で確認できる点について評価をいただいた。今後も、大切な命を預かっていることを自覚し、職員一同、共通認識のもと、細心の注意を払って対応していく。また、保護者の皆様が子どもの言葉に耳を傾け、一緒に楽しんでくださることが、私たちが目指す教育に繋がり、力となっている。保護者の皆様からのアンケート結果に基づき、今後の幼児教育に生かせるよう努めていく。

最後に、本評価に当たり、快くご協力をいただいた評価委員の皆様及び一年を通して温かいご支援とご協力をいただいた保護者の皆様に、心から感謝の意を表します。